

ネイチャーセンター ガイド (96)

「もの」を見る目、その「目」をどこで養うか？

ものが世の中にあふれすぎて、選ぶのに少々戸惑う時がある。これは幸せなことなのだろうか？と疑問に思い、これは不幸なことなのかもしれないと確信めいた時もある。どんな時なのかと申しますと、「考えなくていい」という点。「材質も良く、安価に手に入る」ため、「買ってあげたい」「新しいものに替えればいい」という安易な気持ちになってしまう。

「もの」は、大切にすれば一生使えるものばかりだ。しかし、大量生産が安価なものを生み、大量消費というひとつの文化をも生み出してしまったようだ。先人たちは、ものを有効に使おうと頭を使い、知恵を蓄え、この知恵を発展させ後人に伝え、この伝統を守り抜いてきたのはいつの時代までなのか。

その知恵は、自然との付き合いから学んだものが多かった。自然言わば、山、川、植物、動物、作物などは生きるための糧。この糧との付き合いは真剣勝負だったに違いない。日常生活が真剣勝負だったのだ、生きていくために。今はどうだろうか。皆さんも今の暮らしを、今の心を見つめてもらいたい。

ものを大切に使うということはどういうことなのか。ものの用途を理解し、手入れをし、愛の情を注ぎ込むことで、いつしか忘れない存在になり、大切に使われる。このことを、親の姿を見て受け継がなければならない。親の存在は日常であり、道しるべであるからだ。こうした

環境に恵まれない昨今、「もの」の大切さ、さらに「命」を伝える術は子どもではなく、「親」に伝えていかなければならない時代なのだ。

豊かさは、時には不幸な時代を生み出す。世の中が不幸なのではなく、心が不幸になってきているのだ。これはなかなか気付かないところなのかもしれないが、そんなに難しいことはない。何故なら「歴史」を紐解いていけばいいのだ。

歴史には、さまざまな知恵がある。都留の町にたくさん落ちているが、すぐには発見しにくいもの。そこで足を運び、会話を楽しんでもらいたい場所がある。そこは都留の歴史を紐解くにはまだまだ狭い空間ではあるが、「ミュージアム都留」である。そこにいる学芸員がいい。私の歴史の楽しみ方は、歴史を楽しんでいる人に歴史を教わること。ものすごい勢いで歴史に魅了されていく自分がいる。

歴史は、常にそこにあるからこそ生きてくる。繰り返されるからこそ蘇える。語り継がれるからこそ味が出る。振り返れるからこそ風味が増す。博物館は、広く開かれるからこそ人は来る。心から開かれないと人は来ない。そこに働く芸の肥えた人間がいるからこそ、人は寄ってくる。集客数を博物館運営の礎にははいけない。何故なら、歴史はゆったりと進み、人を振り返らせる偉大な力を持っているからだ。目に見えないものと目に見える成果が重なり合って、人を育て、町を育てる。そんな役割を果たす博物館に足を運び、会話を楽しんでもらいたい。

連絡・問合せ先 ☎(45)6222

宝の山ふれあいの里ネイチャーセンター
開館時間：午前9時から午後4時まで
休館日：月曜日、祝祭日の翌日

振り込め詐欺に注意

電話を利用して親族、警察官、弁護士、職場関係者などを装い、交通事故や痴漢、わいせつ行為に対する示談金などを名目に現金を預金口座に振り込ませるいわゆる「オレオレ詐欺」、郵便やインターネットなどを利用して不特定多数の者に対し、架空の事実を口実として料金を請求する文書等を送付するなどして現金を預金口座に振り込ませる「架空請求詐欺」、実際には融資しないにも関わらず、融資する旨の文書などを送付するなどして、融資を申し込んだ者に対し、補償金などを名目に現金を預金口座に振り込ませる「融資保証金詐欺」といった「振り込め詐欺」が多発しています。

これら「振り込め詐欺」は、いずれも、電話やはがきなどの文書を利用した巧妙な手口で現金を指定口座に振り込ませてだまし取るものです。

皆さん、このような電話やはがきなどの文書がきても、あわてず、また、電話やはがきなどの文書の内容をうのみにせず、警察や親族などに相談して事実かどうか確認してください。また、現金をすぐに指定口座に振り込まないよう注意してください。